

政策金融機関の効率性  
——市場規律は重要なのか？——\*1

浅井 義裕\*2

大浜 賢一朗\*3

## Efficiency of Public Sector Financial Institutions —Is Market Discipline Important?—

ASAI Yoshihiro<sup>\*2</sup>  
OOHAMA Ken-ichirou<sup>\*3</sup>

This paper surveys previous studies regarding state-owned banks. Previous studies show that efficiency and productivity of state-owned banks have been consistently lower. Previous studies also find that the lending behavior of state-owned banks is affected by the electoral results of the party affiliated with the banks. We also survey the previous studies regarding efficiency of the financial institutions in Japan and find that efficiency of financial institutions tends to be diverse during the deregulation period. Finally, we present plans for future studies regarding public sector financial institutions.

**Key Words:** State-owned Banks (国営銀行), Efficiency (効率性), Productivity (生産性), Political View (政治的動機)

---

\* 1 本稿は、2008年度生活経済学会（於関西学院大会）で報告した論文の一部を抜粋したものである。討論者の栗原裕愛知大学教授からの有益なコメントにより、論文の内容が大幅に改善した。記して感謝申し上げたい。なお、本研究は、科学研究費補助金若手研究（B）課題番号197302222「市場規律によるコーポレートガバナンス—わが国の敵対的買収と買収防衛策の実証研究—」の成果の一部である。

\* 2 城西大学助手

\* 3 名古屋大学研究員

## 1. はじめに

市場からの規律付けを受けることのない組織は非効率的、もしくは非生産的になる可能性が高いと指摘されることがある。株式市場からの規律付けを受けにくい企業形態として、国営企業、相互会社、非上場の株式会社などを上げることができる。こうした企業では、経営者が株式市場からの規律付けをあまり受けないために、エージェンシー問題が深刻になると言われているが、明らかになっていないことも多い。

市場からの規律付けの違いが、企業の行動に影響を及ぼすのかについては関心が高く、研究の蓄積が進んでいる。例えば、相互会社と、株式会社の間企業行動の違いについては、Yanase, Asai and Lai (2008) が、わが国の生命保険業のデータを用いて、相互会社に比べて株式会社の方が、運用リスクをとらない傾向があることを発見している。また、Cummins, Tennyson and Weiss (1999) は、米国の生命保険業のデータを用いて、株式会社に比べて相互会社の方が、効率性が低い傾向があることを指摘している。Iannotta, Nocera and Sironi (2007) は、ヨーロッパのデータを用いて、相互銀行の融資の質が優れていることを発見している。

つまり、先行する実証研究は、株式市場からの規律付けを受けない相互銀行の融資の質が優れていることを発見している一方で、株式市場からの規律付けを受けない相互会社は、株式会社に比べて、効率性が劣っていることを発見している。すなわち、株式市場からの規律付けを受けない企業において、エージェンシー問題が常に大きくなるわけではなく、時代や産業、国によって異なっているものと予測できる。

わが国の金融業では、株式市場からの規律付けを受けない金融機関の例として、相互会社（生命保険業）や信用金庫・信用組合、そして政府系金融機関が存在する。そうした中でも、そもそも政府系金融機関の経営は、民間銀行の経営に比べてどのような特徴があり、経済成長にどのような影響があるのだろうか。

池尾（2006）は、日本経済が欧米へのキャッチアップを終えた現在の日本における政策金融の意義という観点からは、正当化される政策金融の役割は極めて限定的であり、業務の縮小や廃止、民営化などの見直しが必要であると指摘している。わが国でも、上述のような指摘を反映する形で、政府系金融機関が統合されたり、民営化されたり、一連の改革が進められている。すると、わが国の政府系金融機関の改革の方向性は、現在予定されているもので適切なのであろうか。こうした問いに答えるためには、まず、海外の国営銀行に関する研究をサーベイすることによって、政府による銀行所有が、銀行の経営や経済

に対して、どのような影響をもたらしているのかについて知っておく必要がある。

政府が銀行を所有すること自体は、実はわが国固有の現象ではない。実際に、La Porta, Lopez-de-Silanes and Shleifer (2002) は、世界的に見て、政府による銀行の所有は一般的に行われていることを指摘している。そして、政府による銀行の所有がもたらす影響については、1990年代の後半から、海外で研究の蓄積が進んでいる。例えば、Sapienza (2004) は、イタリアの事例を分析して、政府が所有する銀行は、民間の銀行に比べて、低利で融資すること、大企業や衰退地域に融資するなどの傾向を発見している。海外の国営銀行に関する研究では、効率性や生産性を対象としたものが多く、本稿では、政府系金融機関以外のわが国の金融機関に関する効率性や生産性の研究についてもサーベイを進め、政府系金融機関の分析を行う上での参考とする。

本稿の先行研究のサーベイから確認できたことは、主に4点である。まず、先行する海外の研究を概観することで、海外では、政府による銀行の所有が一般的に行われていることが明らかになった。次に、銀行の効率性や生産性は、一般的に民間銀行のそれと比べると劣っていることが分かった。さらに、国営銀行の融資は、政治的な影響を受けやすいなどの理由から、民間銀行のそれと比べて、質が劣っていることが明らかになった。つまり、国営銀行では、金融機関の経営に問題が起りやすくなると解釈できる。最後に、わが国の金融機関の効率性は、近年ばらつく傾向があることが分かった。

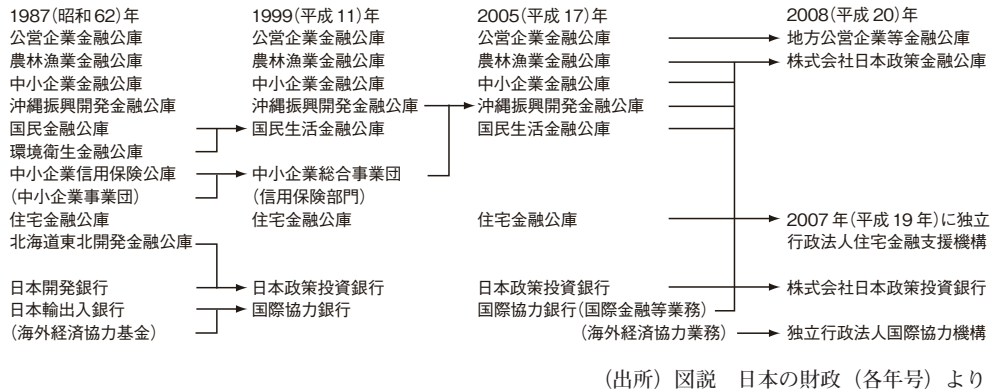
本稿の構成は以下の通りである。第2節では、海外の国営銀行の先行研究を概観している。続いて、第3節では、わが国の金融システム、そして政府系金融機関に関する研究を概観している。最後に、本稿の結論と今後の課題について述べる。

## 2. わが国の政府系金融機関に何が起っているのか？

### 2.1 政府系金融機関の改革

わが国では、政府系金融機関については、図1のように、近年、改革が進展している<sup>1</sup>。

図1 政府系金融機関の変遷



株式会社日本政策金融公庫は、会社法が適用される株式会社だが、政策金融機関として、新機関の株式を政府が常時全額保有する旨の規定が置かれている。つまり、政府が所有する金融機関としての性質は基本的に変わらないことになるが、業務の詳細については変更されたものもある。例えば、貸付を中小企業に関する重要な施策の目的に従って行われるものに限定する、すなわち、一般貸付を廃止することが定められている。

## 2.2 政府系金融機関をどのように理解したらよいのか？

政府がいかなるサービスを提供すべきなのかという議論が、近年盛んに行われている。国防などとは異なり、金融業も政府が提供するべきサービスなのか検討されるべき事業であり、政府系金融機関の統合・民営化の議論は、政府が、一体いかなる財・サービスを提供すべきなのかという議論の一部に属することになる。

かつての政府系金融機関には、いわゆる「呼び水効果」なるものが存在して、政府系金融機関が貸出を行うと、民間金融機関がそれに追随すると言われていた。実際に、堀内・随(1994)は、日本開発銀行からの融資を受けた企業は、その融資額の多少に関わらず、民間金融機関からの融資が有意に増加することを明らかにしている。すなわち、政府系金融機関が、わが国の金融システムにおいて、非常に重要な役割を果たしていたことが分かる。また、政府系金融機関から低利で融資を受けた企業の生産が増加するという効果が指摘されることもある。

全国銀行協会「政府系金融機関の抜本的改革に向けた提言」(平成13年11月)は、赤字補填など一般会計から行われている補給金などが、平成13年度約5800億円であるこ

とを紹介している。また、政府系金融機関による貸出は、平成13年度3月末でわが国の貸出市場全体の約28%を占めていて、民業を圧迫していると主張している。一方で、家森・西垣(2004)やYamori and Nishigaki(2005)は、国庫から政府系金融機関への財政援助は、必ずしも大きくないこと、諸外国の政府保証の判例を含めれば(つまり、政府が関与する金融活動をリスクの観点から見てやれば)、わが国の政府系金融機関の規模は、必ずしも大きいものではないことを指摘している<sup>2</sup>。政府系金融機関による民業圧迫の問題、財政負担の問題は、何を持って政府による金融業への介入と見なすかによっても、その評価が全く異なってくる。

それでは、海外の研究では、政府系金融機関(海外の場合は国営銀行と表記する)をどのように捉えているのであろうか。例えば、Sapienza(2004)は、国営銀行に関する3つの見解を紹介している。1つ目は、Social Viewである。この見方では、国営銀行は、市場の失敗から生じる問題を緩和するために存在していると考えられる。Social Viewの立場からは、国営銀行の効率性や生産性には問題が少なく期待できる。2つ目は、Agency Viewである。この見方では、Social View同様に、国営銀行は、市場の失敗から生じる問題を緩和するために存在しているのだが、国営銀行の目的は、計測しにくいために、経営者に対してプレッシャーが働きにくく、そこから新たな問題が生じると考える。3つ目が、Political Viewである。Political Viewが、上述の2つの見方と根本的に異なっているのは、国営銀行が存在する理由に対する見解である。この見方では、国営銀行は、政治家が選挙の対策のために、政治活動を支援してくれる人に対して、仕事や資金を供給するために存在していると考えられる<sup>3</sup>。こうした場合、国営銀行の融資の質は問題が大きく、経営の効率性についても、問題があるものと予測できる。

このように、国営銀行自身の生産性や効率性を、Social View、Agency View、Political Viewから考えると、政策金融が、経済成長にプラスに寄与する可能性、マイナスに寄与する可能性のどちらの可能性もある<sup>4</sup>。また、国営銀行は、市場からの規律付けが働かないという点を持ち合わせているが、こうした特徴が、国営銀行の経営にどのような影響をもたらすのかについては明らかではなく、様々な国で実証的に検証される必要がある問題である。

### 3. 海外の国営銀行に関する実証的な考察

こうした理論的な観点に基づいて、近年、国営銀行に関する実証的な研究の蓄積が

進んできている。例えば、La Porta, Lopez-de-Silanes and Shleifer (2002) は、92 カ国の政府による銀行の所有状況を紹介している。この研究によると、1970 年の時点では、それぞれの国で最も大きい 10 銀行の株式の 59% が政府によって所有されていて、1995 年の時点でも 42% が政府によって所有されている<sup>5</sup>。つまり、政府による銀行の所有（わが国の政府系金融機関の例も含めて）は、世界的に見ても一般的に行われていることが明らかになっている。さらに、どのような特徴を持つ国で、政府による銀行の株式の所有が大きいのかを検証している。その結果、一人当たり国民所得が低い国、政府の効率性が低い国において政府による銀行の株式所有の割合が大きい一方で、民主的な国においては、政府による銀行の所有が少ないことが明らかになった。また、政府による銀行の所有は、金融システムの発展を促したのかを分析している。その結果、政府による銀行所有が大きい国では、その後の金融システムの発展が阻害されていることが明らかになった<sup>6</sup>。

地域や発展の度合いに応じて、分析の対象を細かくした国営銀行の研究も行われている。まず Williams and Nguyen (2005) は、1990 年から 2003 年までの東南アジア（この研究では、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイの 5 カ国）の国営銀行を対象にして分析を行った結果、民間銀行に比べて、国営銀行は収益性が低いことを発見している。1999 年から 2004 年までのヨーロッパ 15 ヶ国を対象とした Iannotta, Nocera and Sironi (2007) は、相互銀行・国営銀行は効率性が低いこと、国営銀行は、融資の質に問題があることを発見している。Boubakri, Cosset, Fischer and Guedhami (2005) は、1986 年から 1998 年の発展途上国 22 カ国、81 銀行を対象に分析を行った結果、民営化された銀行は効率性が低いこと、民営化後に収益率は向上するが、その改善の程度は所有者の特質に依存すること、民営化後は効率性が改善していることを明らかにしている<sup>7</sup>。

地域ではなく、さらに細かく個別の国を対象にした分析を行い、国営銀行の役割を明らかにしようと試みている研究もある。例えば、Sapienza (2004) は、イタリアの事例を元に、実証的な検証を行っている。その結果、1. 国営銀行は、民間金融機関に同一の条件で、同一企業に融資をしても金利が低いこと、2. 国営銀行は、大企業や衰退地域に融資する傾向がある、3. 政党とのつながりを持つ経営責任者を持つ国営銀行は、関係する政党が強い地域において、融資先の金利を下げる傾向があることを明らかにしている。

Mohieldin and Nasr (2007) は、1995 年から 2005 年のエジプトのデータを使って、国営銀行の効率性や収益性は、民間銀行に劣っていることを発見している。Beck, Cull and Jerome (2005) は、1990 年から 2001 年のナイジェリアのデータを用いて、民営化され



た銀行の収益性はよくなった一方で、国営銀行の収益性は改善していないことを明らかにしている。Bonaccorsi and Hardy (2005) は、1981年から2002年までのパキスタンのデータを用いて、国営銀行の民営化が行われた後は、各銀行の相対的な効率性がばらつき始めることなどを明らかにしている<sup>8</sup>。Nakane and Weintraub (2005) は、1990年から2002年までのブラジルのデータを用いて、国営銀行の生産性は低い一方で、民営化は生産性を改善することを確認している。Berger, Clarke, Cull, Klapper and Udell (2005) は、アルゼンチンの国営銀行の分析を行い、収益性の悪い国営銀行が民営化されていること、民営化の後に、収益性が改善することを発見している。

国営銀行に関する研究の結果を要約しているのが、Megginson (2005) や Clarke, Cull and Shirley (2005) である。Megginson (2005) によれば、国営銀行は、民間銀行に比べて効率性が低いこと、政府が影響力を残す形での民営化は効率性の改善が期待できないこと、外国資本の株主は効率性を改善すると主張している。また Clarke, Cull and Shirley (2005) によれば、国営銀行の民営化が効率性を改善するのは、政府が所有権を手放すとき、適切な株主に株式を譲渡するとき、外国資本を参加させたときであると主張している。つまり、様々な国の事例に基づいた先行研究を概観すると、一般的に、国営銀行の経営の効率性は低いこと、経済成長を阻害すること、政治的な影響を受けた融資を行いやすい傾向があることを発見している。こうした海外の一連の結果と比較するためにも、わが国でも政府系金融機関と民間銀行の効率性の差を比較するなど、実証的な検証が喫緊の課題になっている。

#### 4. 効率性・生産性に関する研究の展開

それでは、わが国では、金融機関の効率性や生産性の研究はどのようになっているのであろうか。刃根・山岸・大川 (1989) は、DEA (Data Envelopment Analysis) を用いて銀行15行 (1987年度) の効率性を分析している。その結果、都銀上位行・地銀上位行が優位、都銀下位行が低位であることを発見している。播磨谷 (2004a) は、1999～2001年度までの信用金庫を対象に、DEAとSFA (Stochastic Frontier Analysis) を用いた効率性の計測を行っている。その結果、DEAによる効率性値の計測から、1999～2001年度にかけて、効率性の格差が拡大していることを発見している。また、播磨谷 (2004b) は、北海道内の信用金庫と信用組合の経営特性をDEAで分析を行っている。その結果、(資源配分を考慮した) 費用効率性は、信用金庫平均は信用組合平均よりも低く、1997年度



を境に、信用組合の同効率性の格差が拡大する傾向にあることを発見している。

ところが、わが国の政府系金融機関については、DEAを用いた効率性や生産性の評価について、筆者たちが把握する限り、実証的な分析がほとんど存在していない。また、吉野（1994）の分析手法がDEAではなく、データ期間が1965年から1992年までであることから、先行する他の金融機関のデータ期間と大きく異なり、わが国の他の金融機関の効率性の分析と比較することが難しい。

ところで、政府系金融機関は、「金融機関」としての性質だけではなく、国会の議決を経る必要のある政府系金融機関予算によって運営されるために、公営企業としての性格も持ち合わせている。「税金や財政的な支援は効率的に使われているのか」という観点から、公営企業にとっても効率性の問題は重要で、金融機関の効率性を計測するのに用いられるDEAによる研究の蓄積が進んでいる。

例えば、宮良・福重（2002）は、地方公営バス事業者の効率性と、効率性に影響を与える要因についても分析を行っている。その結果、19歳以下人口比率（通勤・通学者を表す変数）や人口規模が、効率性と正の関係にあることを発見している。金坂・倉本・赤井（2007）は、バス事業と地下鉄事業の生産性変化について、Malmquist indexの計測とその変化の要因について分析を行っている。その結果、バスについては、生産性変化が都心部で低下傾向、地方部は上昇傾向にあることを発見している。また、生産性変化の要因については、バス補助金が生産性を低下させる可能性があること、経営基盤強化の経営計画の実施が効果的であること、地下鉄については委託の促進が生産性の改善に効果的であることを発見している。野竿（2007）は、地方公営病院の経営効率性を分析し、効率性に影響を与える要因を明らかにしようと試みている。情報公開条例等が病院の開設自治体にあること、第三者機関による評価を受けることで効率性は高まることなど、情報の非対称性を緩和するシステムを備えている地方公営病院の経営効率性が高いことを明らかにしている。つまり、わが国の先行研究の展開からは、政府系金融機関を「金融機関」として捉えても、「公営企業」として捉えても、政府系金融機関の効率性に関する研究が不可欠な状況にあると判断できる。

## 5. 政府系金融機関の実証的な分析の方向性

わが国の政府系金融機関の問題点として挙げられることが多いのは、①財政投融资資金が投入されている、また、その財政投融资資金が効率的に使われているのか、②肥大化し

た政府系金融機関が、民間銀行の業務を圧迫しているという2つの点である。

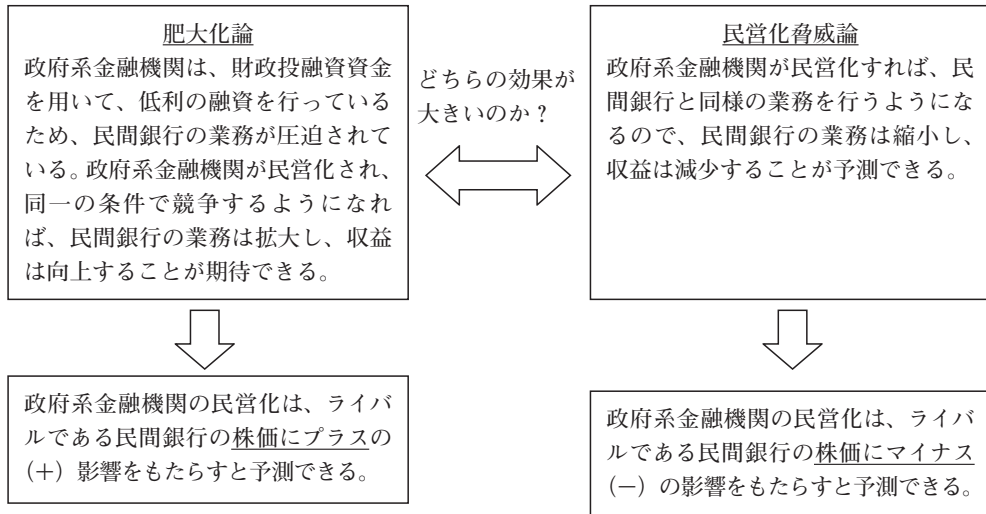
第3節で確認したように、海外の国営銀行に関する研究の多くは、民間銀行と国営銀行の効率性の差を計測し、国営銀行の効率性が劣っていることを発見していた。つまり、投入されている財政資金が、効率的に使われていない可能性を示唆している。わが国でも、政府系金融機関と民間銀行の効率性を比較することによって、政府系金融機関の経営が、民間銀行に比べて効率的に運営されているのか、すなわち、民間銀行の効率性を基準にして、政府系金融機関において財政資金が効率的に使われているのかを検証することは可能である。

さらに、国営銀行と民間銀行に加えて、信用金庫や信用組合を加えて分析することは、効率性の違いをもたらす理由を明らかにすることになるかもしれない。つまり、金融機関の効率性を悪化させる可能性として、「Political View」に加えて、「市場規律の不在」もあげられる。政府系金融機関は、市場規律の不在に加えて、政治的な要因の影響を受けやすい可能性が高い。すなわち、民間銀行の効率性が最も高く、その後、信用金庫や信用組合、最後に政府系金融機関という順になることが理論的には予測される。こうした予測が、先行する研究が対象とする発展途上国だけではなく、わが国でも成立するのかを実証的に検証しておく必要がある。

Otchere (2005) は、1989年から1997年までの発展途上国を対象に、国営銀行の民営化が、ライバルになる民間銀行の株価に与えた影響を計測している。その結果、政府系金融機関の民営化は、その他の民間銀行の株価にマイナスの影響を与えることが明らかにしている。上記の②の視点からすると、肥大化した国営銀行が民営化されれば、民間銀行の業務は拡大することになり、それらの株価は、プラスになることが予測できる。ところが、実際には、マイナスの影響が出ている。

図2が示すように、理論的には政府系金融機関の民営化は、ライバルの銀行の株価に、プラスにもマイナスにも影響する可能性がある。Otchere (2005) の結果は、民営化された銀行が、民間銀行の業務範囲を脅かす可能性の方が大きいことを示唆している。わが国でも、政府系金融機関の民営化、郵政民営化の方向性が打ち出されており、こうした民営化が、わが国の民間金融機関にどのような影響をもたらしているのかを明らかにする必要がある。

図2 肥大化論と民営化脅威論



また、政府系金融機関内の効率性の違いについて検証することも考えられる。政府系金融機関も、統合などが進展し、効率性の改善が一様に進んでいるとは考えにくい状況にある。さらに、第4節で確認したように、わが国の金融業では、効率性の観点から、ばらつきが見られるようになってきていることが分かっている。そこで、政府系金融機関と民間銀行の効率性の違いに加えて、政府系金融機関内での効率性の違いについて検証を行う必要がある。

## 6. 結語

本稿では、わが国の政府系金融機関に関する研究の整理を行った。本稿で確認できたことは以下の通りである。まず、先行する海外の研究を概観することで、海外では、政府による銀行の所有が一般的に行われていることが明らかになった。次に、銀行の効率性や生産性は、一般的に民間銀行のそれと比べると劣っていることが分かった。また、国営銀行の融資は、政治的な影響を受けやすいなどの理由から、民間銀行のそれと比べて、質が劣っていることが明らかになった。最後に、わが国の金融機関の効率性は、近年ばらつく傾向があることが分かった。

本稿の残された課題について述べておこう。まず筆者たちは、海外の国営銀行に関する研究のサーベイを行っているが、第5節で確認しているように、今後の研究では、わが国

のデータを用いて、政府系金融機関の効率性や生産性に関する分析を行う必要があるだろう。先行する研究の多くは、発展途上国を対象にしたもので、先進国の国営銀行の役割は、発展途上国の国営銀行の役割とは異なっている可能性もある。具体的には、国営銀行、外資系銀行・銀行・信用金庫・信用組合など、同様の業種で、所有者が異なる金融機関の効率性の違いを計測することが考えられる。

また、どのような特徴を持つ政府系金融機関において、効率性が優れているのか、生産性が改善しているのかを明らかにしておく必要がある。具体的には、国庫からの利子補給、市場からの資金調達割合、役員の出身母体など、外部からの規律付けおよび内部ガバナンスが、政府系金融機関の効率性や生産性の改善とどのような関係にあるのか、回帰分析によって実証的に明らかにしていくことは、今後の政府系金融機関の統合、民営化の方向性の是非を議論する上でも、極めて重要な課題になるであろう。

#### 注

- 1 本稿では、政府系金融機関とは、図1にあるような機関・機構を指すものとする。
- 2 家森・西垣（2004）では、住宅金融に関する政府保証を含めると、米国の政府の金融活動に対する関与は、わが国のそれよりも大きいことが指摘されている。
- 3 Social View, Agency View, Political Viewの詳細については、La Porta, Lopez-de-Silanes and Shleifer（2002）を参照されたい。
- 4 池尾（2006）は、政策金融の役割を市場の失敗を緩和するものと補完的に位置づけるSocial Viewに対して、政策金融の役割を経済の発展を促すものと捉えるDevelopment Viewを提示している。Development Viewとは、社会的なインフラ整備に関わる投資などの問題に対し、市場機構自体が発達していない開発途上国では政府介入が有効であるため、政策金融を通じた投資促進が必要であるという見方である。
- 5 Common Law起源の国とCivil Law起源の国でも、政府による銀行の株式所有に違いがあることを指摘している。
- 6 La Porta, Lopez-de-Silanes and Shleifer（2002）の言う金融システムの進展の阻害とは、政府による銀行の所有は、民間の貸出残高／GDP比率、時価総額／GDPに負の効果をもたらすことを意味している。また、政府による銀行の所有は、一人当たり国民所得を増加させていないとも主張している。つまり、政府による銀行の所有は、その国の経済成長をも促していないことが分かった。
- 7 用いる分析の手法にもよるが、本稿では効率性とは産出／投入、生産性の改善とは前年度と今年度の間での産出／投入の改善、収益性とは資産に対するリターンなどを指すものとする。
- 8 Haber（2005）は、1991年から2003年までのメキシコ、Chen, Li and Moshirian（2005）は、1999年から2004年までの香港の分析を行っている。

## 参考文献

(邦文文献)

- 池尾 和人 (2006) 『開発主義の暴走と保身—金融システムと平成経済』 NTT出版。
- 金坂 成通・倉本 宜史・赤井 伸郎 (2007) 「公営交通事業の効率化効果と要因の実証分析」『財政研究』第3巻 (格差社会と財政), 日本財政学会編, 有斐閣pp. 160-183.
- 播磨谷 浩三 (2004a) 「DEAによる道内地域金融機関の効率性の計測」『札幌学院商経論集』Vol.20, No.4, pp.1-25.
- 播磨谷 浩三 (2004b) 「信用金庫の効率性の計測—DEAと確率的フロンティア関数との比較—」『金融経済研究』第21号 pp.92-111.
- 刃根 薫・山岸 晃・大川 直人 (1989) 「DEAによる都市銀行等の経営効率の比較」『オペレーションズ・リサーチ』Vol.7, pp.316-319.
- 堀内 昭義・随 清遠 (1994) 「情報生産者としての開発銀行：その機能と限界」 貝塚啓明・植田和男編『変革期の金融システム』東京大学出版会。
- 柳川 範之 (2000) 『契約と組織の経済学』 東洋経済新報社。
- 柳瀬 典由・浅井 義裕・富村 圭 (2007) 「規制緩和後のわが国損害保険業の再編と効率性・生産性への影響 —一連の合併現象は生産性の改善に貢献したのか?—」『損害保険研究』第69巻第3号 pp.99-126.
- 野竿 拓哉 (2007) 「地方公営病院におけるインセンティブ問題」『会計検査研究』No.35, pp.117-128.
- 宮良 いずみ・福重 元嗣 (2002) 「公営バス事業の効率性評価」『会計検査研究』No.26, pp.25-43.
- 家森 信善・西垣 鳴人 (2004) 「日本の公的金融—肥大化論と官業の特典論の再検証—」『ファイナンシャルレビュー』第31号 pp.111-136.
- 吉野 直行 (1994) 「寡占的金融市場における公的金融の役割」 貝塚啓明・植田和男編『変革期の金融システム』東京大学出版会。

(英文文献)

- Asai, Yoshihiro, Noriyoshi Yanase, Kei Tomimura and Junya Ozeki (2007) “Efficiency of Life Insurance Companies in Japan” The Asia-Pacific Risk and Insurance Association, Taiwan.
- Beck, T., Crivelli, J.M. and Summerhill, W., (2005) “State bank transformation in Brazil – choices and consequences”, *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2223-2257.
- Beck, T., Cull, R. and Jerome, A., (2005) “Bank Privatization and Performance: Empirical Evidence from Nigeria”, *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.2355-2379.
- Berger, Allen.N., (1998) ‘The Efficiency Effects of Bank Mergers and Acquisition: A preliminary look at the 1990s data’ In Amihud, Yakov and Geoffrey Miller, *Bank Mergers & Acquisitions*, Kluwer Academic.
- Berger, Allen.N., Clarke, Geage.R.G., Cull, Robert., Klapper, Leora. and Udell, Gregory.F., (2005), “Corporate governance and bank performance: A joint analysis of the static, selection, and dynamic effects of domestic, foreign, and state ownership”, *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2179-2221.
- Berger, A.N. and D.B. Humphrey, (1997) “Efficiency of financial institutions: International survey and directions for future research”, *European Journal of Operational Research*, 98(2), pp. 175-212.
- Boehmer, Ekkehart., Nash, Robert. and Netter, Jeffrey., (2005), “Bank privatization in developing and developed countries: Cross-sectional evidence on the impact of economic and political factors”,

- Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.1981-2013.
- Bonaccorsi di Patti, E. and Hardy, D.C., (2005), "Financial sector liberalization, bank privatization, and efficiency: Evidence from Pakistan", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2381-2406
- Boubakri, Narjess., Cosset, Jean-Claude., Fischer, Klaus. and Guedhami, Omrane., (2005), "Privatization and bank performance in developing countries", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.2015-2041.
- Chen, Zhian., Li, Danghui. and Moshirian, Fariborz., (2005), "China's financial services industry: The intra-industry effects of privatization of the Bank of China Hong Kong", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2291-2324.
- Clarke, G., Cull, R. and Shirley, M., (2005) "Bank privatization in developing countries: A summary of lessons and findings", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.1905-1930.
- Coelli, Timothy J., Rao, D. S. Prasada. and Battese, George E. (1998), *An Introduction to Efficiency and Productivity Analysis*, Kluwer Academic Publishers.
- Cooper, William W., Seiford, Lawrence M. and Tone, Kaoru. (1999), *Data Envelopment Analysis: A Comprehensive Text With Models, Applications, References and DEA-Solver Software*, Kluwer Academic Publishers.
- Cummins, David J., Sharon Tennyson and Mary A. Weiss (1999), 'Consolidation and efficiency in the US life insurance industry', *Journal of Banking and Finance* 23(2-4), pp. 325-357.
- Dinç , I. Serdar (2005) "Politicians and banks: Political influences on government-owned banks in emerging markets", *Journal of Financial Economics* 77(2), pp. 453-479.
- Fukuyama, H., (1997), "Investigating Productive Efficiency and Productivity Changes of Japanese Life Insurance Companies" *Pacific-Basin Finance Journal* 5(4), pp.481-509.
- Gleason, K., McNulty, J.E. and Pennathur, A.K., (2005), "Returns to acquirers of privatizing financial services firms: An international examination", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.2043-2065.
- Haber, Stephens., (2005), "Mexico's experiments with bank privatization and liberalization, 1991-2003", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.2325-2353.
- Hart, Oliver and Andrei Shleifer and Robert Vishny (1997) "The Proper Scope of Government: Theory and an Application to Prisons" *Quarterly Journal of Economics*, 112(4), pp. 1127-1161.
- Iannotta, Giuliano, Giacomo Nocera and Andrea Sironi (2007) "Ownership structure, risk and performance in the European banking industry" *Journal of Banking and Finance* 33(7), pp.2127-2149.
- La Porta, R., Lopez-de-Silanes, F. and Shleifer, A., (2002), "Government ownership of banks", *Journal of Finance* 57(1), pp. 265-301.
- Lopez-de-Silanes, Florencio, Andrei Shleifer, and Robert Vishny, (1999), "Privatization in the United States" *Rand Journal of Economics* 28(3), pp.447-471.
- Monhieldin, Mahmoud and Sahar Nasr (2007), "On Bank Privatization: The Case of Egypt" *The Quarterly Review of Economics and Finance* 46(5), pp.707-725.
- Nakane, M. and Weintraub, D., (2005), "Bank privatization and productivity: Evidence for Brazil", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2259-2289.
- Otchere, I., (2005), "Do privatized banks in middle- and low-income countries perform better than rival banks? An intra-industry analysis of bank privatization", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2067-2093.
- Sapienza, Paola, (2004), "The Effect of Government of Ownership on Bank Lending", *Journal of*



- Financial Economics* 72(2), pp.357-384.
- Shleifer, Andrei. and Vishny, Robert.W., (1994), "Politicians and Firms", *Quarterly Journal of Economics*, 109, pp.995-1025.
- Viton, Philip A. (1996) "Technical Efficiency in Multi-Mode Bus Transit: A Production Frontier Analysis," *Transportation Research* 31B (1), pp.23-39.
- Meggison, W.L., (2005) "The economics of bank privatization", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp.1931-1980.
- Williams, J.and Nguyen, N., (2005), "Financial liberalisation, crisis, and restructuring: A comparative study of bank performance and bank governance in South East Asia", *Journal of Banking and Finance*, 29(8-9), pp. 2119-2154.
- Yamori, Nobuyoshi and Nishigaki Narunto (2005), "The Public Financial System in Japan: Re-verification of the Ballooning Theory and the Privileged Government Enterprise Theory," *Public Policy Review* 1(1), pp.33-47.
- Yanase, Noriyoshi, Yoshihiro Asai and Gene Lai (2008) 'Organizational Structure and Risk Taking: Evidence from the Life Insurance Industry in Japan', 12<sup>th</sup> Asia-Pacific Risk and Insurance Association, Australia.